

高齢者住宅 経営者・リーダー53人に聞く

シニアビジネス2021

【個表の見方／質問事項】

- ① (コロナ禍で) 2021年以降のシニア・介護ビジネス、高齢者住宅運営は全体としてどう変化していくとお考えですか？
- ② 業界全体の高齢者住宅(有料老人ホーム・サ高住)の開発トレンドは？また、貴社の開発意欲は？
- ③ 現在、貴社にとってのシニア・ヘルスケア業界における最大の関心事はなんですか？(感染症対策、新・生活様式への対応、災害対応、次期介護保険制度改正、認知症・認知症予防、人材採用、人材育成・定着、外国人材活用、人件費上昇、建築費高騰、入居率改善(入居募集活動)、テクノロジー導入による業務効率改善・顧客サービス充実、
- ④ 貴社運営施設における感染症対策や新・生活様式への対応、さらには人材採用・育成・定着に関して、2021年、新たに行なう予定のお取組みがございましたら教えてください。
- ⑤ 貴社の2021年以降の「イチ押しプロジェクト」がありましたら、その特徴と併せてご記入ください。

① 各社が感染症対策を進めるなかで、生活の利便性を失わないようにする創意工夫をしなければいけない年となるだろう。リモート環境整備と効果的かつ簡便な感染症対策などを各社追求するだろう。また、介護業界の採用コスト増加は避けられず、業績伸長には人件費管理と省人化は避けられない。団塊の世代が後期高齢者に近づき、介護サービスの供給が逼迫していく2025年問題を乗り越えるために、人材の確保や運営効率化をどう進めるか。業界全体の取組みが加速していくだろう。

② コロナ禍による先行きの不安から新規物件開発については消極的にならざるを得ない。その一方で、M&A案件は急増しているので、当社でも有望な話があれば前向きに検討していく。

③ 新・生活様式への対応、次期介護保険制度改正、外国人材活用

④ さまざまな感染症対策が溢れているが、いかに効果的かつ手間が掛からないものを引き続き探していくと同時に、コロナが発生してしまった時の準備をしっかりと進めていきたい。20年夏より当社提供によるPCR検査ができるよう整備した。また当社では全事業所が感染症対策を日々実践できているかを、本社でリアルタイムに映像確認できるように設備投資をした。強固な感染症対策をしっかりとアピールしていく。リモート会議が普及し、研修などが逆にやりやすくなり、採用なども効率化できている。外部研修なども導入しやすくなったことから、研修機会をどんどんふやしていき、成長できる職場環境を構築し、人材定着につなげたい。来期よりさらなる現場職員の待遇改善を実施予定。

⑤ 本来であれば当社介護サービスは20年が20周年だったが、コロナ禍によりイベント等はほぼ自粛。来期の事態終息の暁には大々的に盛り上げていきたい。



株式会社
コムニケア24
事業統括部長代行

伊藤辰郎氏